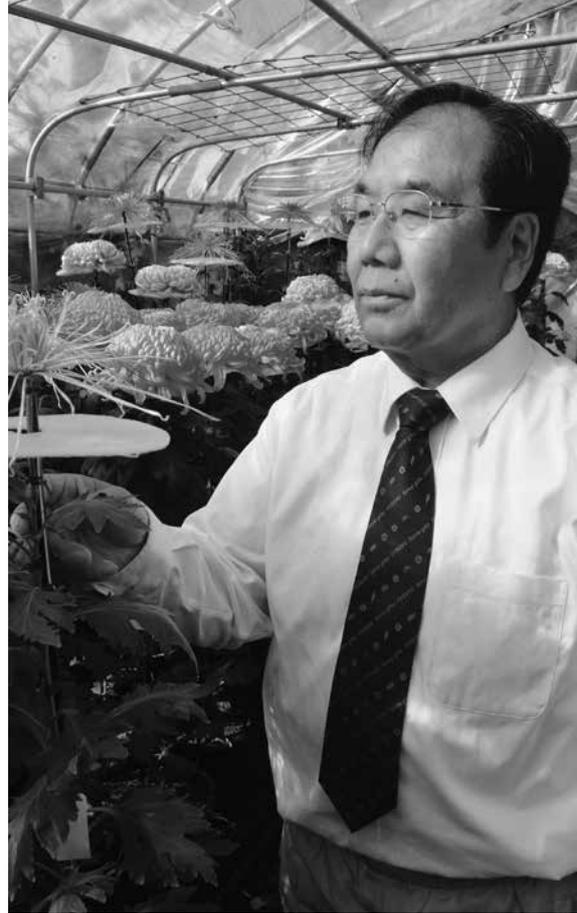




のいる風景

阿部 一秀 さん



【あべ かずひで さん】北陽 65歳

●千歳菊友会 会長

全日本菊花連盟の公認審査員も務める。千歳菊友会では、一緒に菊づくりを楽しむ会員を募集しています。

連絡先 ☎(22) 7685

千のことを手がけると
千のことに応えてくれる。
それが菊。

技

「術を受け継ぐことが大切」。こう話す阿部さんは、全日本菊花連盟が主催する全国大会で、1位に輝く菊を育て上げたこともある菊づくりの名人。千歳菊友会で会長を務めている。

阿部さんは、自宅横のビニールハウスで110種類以上、約200株の菊を育てている。

菊友会では、5、6、7月に菊づくり講習会を実施しており、そのときプレゼントする菊の苗を500株ほど用意するという。

菊づくりでは、お盆の時期から日照時間を調整する作業を始める。ハウスに黒いビニールをかけた後、夜、菊にライトを当てる作業を2週間ほど続けると、9月上旬につぼみができはじめる。その後、1グラム単位で与える肥料を調整しながら菊の旬を迎える11月上旬、展示会で満開の菊の花が咲くようタイミングを調整して育てる。

阿部さんが菊づくりをはじめたのは、今から38年前、27歳のとき。「春になると若手に住む叔父が菊の苗を10本ほど送ってくる。叔父は、菊づくりを私に教えたかったのだと思うが、当時、菊に興味がなく、庭に植えてそのまま。叔父からは『花、咲いたか?』と聞かれる程度。そんなことが3年ほど続くと、毎年送ってくる叔父に悪い気がして、ついに菊づくりを教わる決心をした」と振り返る。

「叔父の家に通ったり、叔父に千歳まできてもらったりと5年間、育て方を教わった」。その叔父も叔父の叔母から菊づくりを学び、技術を受け継いでいた。「菊は日本伝統の花。菊づくりに携わる方が少なくなっていることが寂しい」と話す阿部さん。菊のことを広く知ってもらい、菊に興味を持ってもらうため札幌や岩見沢などでも講習会を行って技術を伝えている。また、阿部さんは、全日本菊花連盟の

審査員を務めており、全国の菊花展に足を運ぶ機会が多い。「菊は、その地域独自の育て方をしていっているものがある。東京の江戸菊、京都の嵯峨菊、熊本の肥後菊など地域独自の菊は、全く違った花の形を見せる。そこでしか見ることができない菊を北海道の皆さんにも見せたい」という思いから現地へ苗を購入して自宅まで育てている。「寒さに負けず育つか、また、きちんと花が咲くか、皆さんにお見せできるまで3年はかかる」と笑う。

「10月下旬頃、7分咲きになった花を見て、満開の花の様子が想像できる。それがイメージどおりだったときに『やったぞ』という気持ちでこみ上げると、阿部さん。「千のことを手がけると、千のことに応えてくれる。それが菊。手をかけた分だけ素晴らしい花を見せてくれるところに魅力がある。たくさんの方に菊の魅力を知ってもらえれば」と菊を丁寧に手入れしながら笑顔で話してくれた。